

地域から見えてきた課題

1. ホームヘルパーが不足しており、必要としている人にサービスが行き渡っていない。

〔現状〕

- ①利用する時間や曜日が集中しているため、ヘルパーが不足している：特に日中活動が終わる時間以降
- ②特に男性ヘルパーが不足している：入浴・排泄を介護するためには、同性介護が原則
- ③重度訪問介護を請け負う事業所が少ない。
- ④ヘルパーが不足している原因の1つは、ヘルパーの待遇、雇用条件がよくないこと
- ⑤特定の事業所に利用者が集中している：他事業所の情報提供をしても応じてもらえない。
- ⑥本来であればホームヘルパーに頼むほどでもない内容の依頼もある。
- ⑦事業所の縮小や閉鎖があり、それまで利用していた人がサービスをあきらめるケースもある。

2. 発達障がいについて地域社会の理解が不足しており、連携ができていない。

〔現状〕

- ①発達障がいについての認識が地域社会全体でまだまだ低い。
- ②教育現場などでも、理解や支援方法がきちんと理解されておらず、子どもは生活しづらい状況になっており、親が受容している場合でも、連携が取れていない場合が多い。
- ③診断を受けるところがなかなかない。もしくは、時間が非常にかかる。
- ④福祉サービスや療育などに関する情報が当事者に行き届いていない。
- ⑤大人の発達障がい者(10代後半～成人)への支援がほとんどなく、制度の谷間に置かれている。
- ⑥療育について、障がいの程度や内容にあった療育の機会を充実してほしいとの回答が約7割と高い。(障がい者へのアンケート結果)
- ⑦子どもの特性に応じた個別支援教育を充実してほしいとの回答が5割を超えている。(障がい者へのアンケート結果)

3. 障がいに対する理解を深めることが必要である

〔現状〕

- ①障がいについての理解が浅く、心無い言葉を浴びることがある。
- ②病気になる人自身も含め、社会全体がこれまで隠すような流れの中にあった。本人も少しでも病気に関する知識があれば、何かあったときに早く治療できたのではないか。
- ③普通の病気のことは知っていても、精神の病気のことは知らないというのはおかしい。
- ④親の務めとして負い目を感じることもあるが、本人が何か悪いことをしたわけではない。
- ⑤一時は隠したが今では隠さない。正しく伝えなければならないし、必要であれば伝えていくことはばからない。
- ⑥障がいに対する社会的な偏見があると感じている人の割合が88%（障がいのない人へのアンケート結果）

4. 障がい者を支えている家族への支援・教育が必要である

〔現状〕

- ①家族関係が希薄で保護者の意識・関心が低いと、支援をする以前の段階で家族の協力が得られにくい。
- ②知的障がいを持つ本人を支援しようとしても、保護者の知識等も不足しており、まずは保護者に説明（家族への支援）をするだけでかなりの時間を要するし、相談支援が定着しない。
- ③本人の能力等を考えて、明らかに一般就労するだけの能力を持っているのにも関わらず、保護者としては、敢えて一般就労にチャレンジさせるようなことをしないケースもある
- ④高齢の保護者と重度の知的障がい児・者の家庭では、保護者の親亡き後に対する意識が弱い。
（制度を含め、現状を理解できていない）
- ⑤親が抱え込んでしまい、サービスにつながっていないケースは、もしものことに対する意識ができていない
- ⑥今は親が負担しているからどうにかやっているが、その子だけでやっていくことはできない。
親が亡くなった後が課題
- ⑦家族の高齢化や離婚・諸問題から障がい者が孤立し、身寄りがない状態になるケースがある。
- ⑧あまりにも長い時間親とともにいると子どもも順応性がなくなる。早い段階で子どもを手放さなければ、親も子どもも順応性がなくなってしまう。
- ⑨親が面倒を看れなくなって仕方なくという話は聞くが、できればホームには入れたくない。

- ⑩最後はすべて家族の責任。できないことは家族が抱えている。
- ⑪親が何が一番困るかという、親亡き後、どうやっていくかということ。そういう子どもを抱えている親もたくさんいる。
- ⑫作業所やヘルパーを利用している人はほんの一部だと捉えている。そうでない当事者や家族も勉強しなければならないといろいろなところで言われるが、どこで勉強すればいいのかわからない。法律が変わる中で、勉強をしてもついていけない。
- ⑬自宅で子どもと顔をつき合わせている家族にとっては責任ばかりが大きくなっていく。また、勉強会や講習会があるといっても自分の身には程遠い内容であることが多い。
- ⑭ちょっとしたヒントをもらおうと人生が変わるということもあるが、家族会の中で支えあうといっても限界がある。
- ⑮それぞれの家族の中でも関係が違ふし、互いに大変さを抱えているので、家族会の中で支えあう必要があるとわかっていてもできないのが現状

その他の課題

- 災害時・緊急時への対応
- キーパーソンのいない障がい者、単身の障がい者へ、孤立する障がい者への支援
- 権利擁護、成年後見
- 地域の中で安心して住める場所の確保 等